

# HITA 日田市 埋蔵文化財 センター

Buried Cultural Properties Center

黎明の日田の歴史ここにあり



休館日 土・日・祝日・年末年始  
開館時間 午前9時から午後4時

入館無料



## 展示概説

### はじめに～日田市の地形～

筑後川の上流域にある日田盆地は、耶馬溪火砕流や阿蘇4火砕流によって形成された台地や丘陵に囲まれます。さらに上流の玖珠との間には優れた景観の滝や天ヶ瀬温泉があり、津江山系には深い谷地形が形成され、水系に沿って小谷が随所にみられます。北部九州の中央部に位置し、多様な地形を持つ日田は、四方からの文化を受け入れては、独自の歴史を育んできました。

### ～阿蘇4火砕流と小野川の埋没樹木～

今から約9万年前に発生した阿蘇山の4回目の破壊的噴火によって、九州のほぼ全域を覆い尽くした火砕流は日田市小野川の谷に到達しました。凄まじい破壊力によって樹木をなぎ倒され埋まった埋没樹木群が川底から発見され、大きく変形して折れ、焼け焦げていました。現地は国の天然記念物に指定されています。



### 旧石器時代～狩猟民の生活～

今から約3万5千年前から約1万5千年前までの旧石器時代に、日本人の祖先は、狩猟の道具である石器などを作り、獲物を求めて日本へ移動してきたと考えられます。

天瀬町の五馬台地では、約3万4千年前の焚火跡が見つかった高瀬Ⅲ遺跡、狩猟の拠点であった亀石山遺跡などの多くの遺跡が見つかっています。



### 縄文時代～定住生活の始まり～

今から約1万3千年前に始まる縄文時代には、弓矢と土器が発明され、川に近い遺跡からは、漁労に使用した石錘なども見つかります。川の近くにも生活域が広がり、人々は定住生活を営むようになります。市内各地でも竪穴住居が見つかります。定住生活に伴って精神文化が発展し、土偶などの祭祀に用いる道具が多数作られます。



埋蔵文化財センターは、埋蔵文化財の発掘調査等で出土した資料の保存と活用、市民の教育、学術及び文化の発展に寄与することを目的としています。

#### 【埋蔵文化財センターの主な業務】

1. 埋蔵文化財の発掘調査及び研究  
遺跡の記録保存のための発掘調査やその調査成果の研究を行っています。



2. 資料の収集、整理及び保管  
発掘調査において出土した土器や石器などの遺物を整理・保管する作業を行っています。



#### 3. 調査成果の普及及び啓蒙

発掘調査現場の公開、講座の開催、火おこしなどの体験教室を行っています。



#### 4. 資料の展示、公開

展示室で常設展や企画展を開催しています。



#### 日田市埋蔵文化財センター

〒877-0078 大分県日田市友田2893-44

TEL 0973-26-3211

【問合せ先】

文化財課埋蔵文化財係

〒877-8601 大分県日田市田島2-6-1 TEL 0973-24-7171

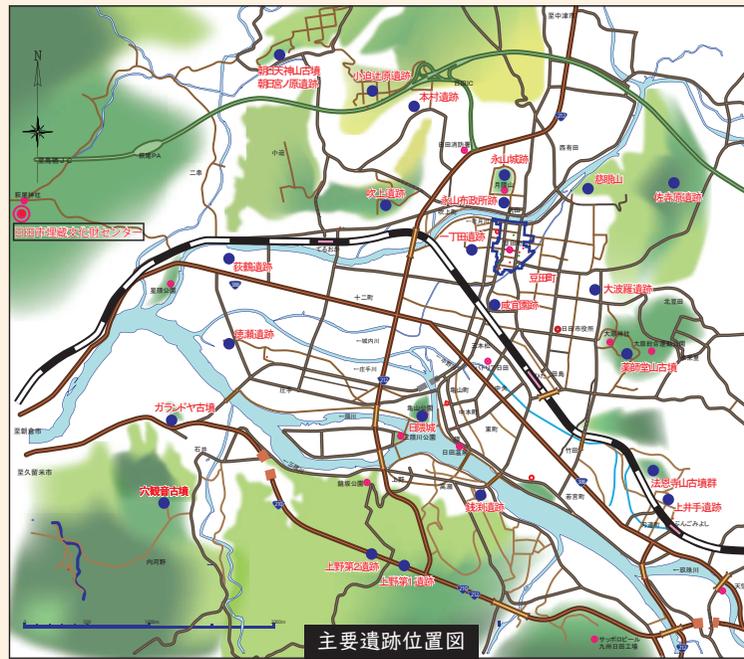
## 弥生時代～日田盆地の弥生時代～

今から約2,500年前、大陸から稲作とともに青銅器・鉄器といった先進的な文物も伝来します。生活様式が一変し、多様な手工業の発展を促します。集落は大型化し、大規模な濠を巡らせた環濠集落がつくられるようになります。

日田でも、徳瀬遺跡や吹上遺跡などでいち早く集落がつくれ、大肥遺跡で発見された木製農具や農業用堰等から、稲作の導入もわかっています。なかでも吹上遺跡では、南海産貝輪、青銅製や鉄製武器、ガラス管玉などの豪華な副葬品を持つ甕棺墓や木棺墓で構成される墳墓群が発見され、当時の有力者集団の墓であると推測されています。中国の史書でクニと呼ばれる北部九州の弥生社会と密接に関わっていたのでしょう。



細形銅剣 (吹上遺跡)  
三叉鏃 (大肥遺跡)



主要遺跡位置図

## 古墳時代～大和王権の時代と暮らし～

大和王権が誕生した頃の日田盆地では、小迫辻原遺跡で政治的な様相が強い集落が出現し、80基程度古墳や横穴墓などの様々な墳墓が市内各地に築造されます。なかでも、埴輪を巡らす薬師堂山古墳や市内最大の前方後円墳の朝日天神山古墳、法恩寺山・ガランドヤ・穴観音古墳などの装飾古墳といった首長墳が目立ちます。

5世紀頃には朝鮮半島から窯焼きの須恵器製作やカマドなどが伝わり、鉄の生産技術が大きく進歩するなど、様々な生産技術、風習などが大きく変化します。日田盆地の多くの住居でもカマドが採用され、荻鶴遺跡などでは鍛冶工房跡や鉄原料の鉄錠などが発見されます。



玉頸 (中尾原遺跡)



須恵器脚付壺 (法恩寺山4号墳)

## 古代～律令国家と日田郡の成立～

天皇中心の律令国家が成立すると、各地に国、郡、里(郷)が設けられ、現在の日田市域とほぼ同じ「豊後国日田郡」が成立します。郡は「石井」「鞆編」「在田」「日理」「夜間」の5つの郷に区分されます。

大型柱列や建物群、墨書土器や硯、瓦などが出土した大波羅遺跡は、日田郡の役所と想定され、建物群や郡司職の名称である「大領」銘の墨書土器が出土した小迫辻原遺跡は、郡司の館と考えられています。そのほか、上野第1遺跡では道路や倉庫群とともに「豊馬豊馬」と線刻された石製品が出土し、「石井駅」の候補地とされます。



大領銘墨書土器 (小迫辻原遺跡)



円面硯 (三和教田遺跡)

## 中世～中世社会と大蔵氏の栄華～

日田の武士を代表するのは大蔵氏で、西豊後に一大勢力を築いていました。相撲の神として知られる大蔵永季のように、初期には中央の貴族に従属して勢力を確実なものにし、後期には豊後守護の大友氏に従いながらも独立を確保していました。こうして権力の影響を受けながらも日田独自の文化が育っていったのです。

慈眼山に本拠地として城を構え、その眼下には屋敷群が広がっていました。出土した遺物には当時の人々が使った素焼きの土器のほか、博多を介した中国との貿易を示す輸入陶磁器や渡来銭、鞘や刀といった武士所縁の物や箸・杓文字などの生活具、碁石や独楽などの遊具など多彩な遺物が出土しており、大蔵氏の栄華と武家屋敷の生活の情景がみとれます。



青磁合子 (朝日宮/原遺跡)



懸仏 (尾漕遺跡)

## 近世～永山城とその城下町～

日田が太閤蔵入地となると日隈城と城下町限町が作られ、徳川へと政権が移ると月隈山に丸山城(後の永山城)と城下町豆田町が作られます。九州地方の各大名を監視する重要な拠点であった日田は大名支配を経たのち、堀外に代官陣屋が置かれ幕府直轄地(天領)となるのです。

豆田町は代官・郡代の庇護のもと商人町として発展し、商人の中には、九州各藩の御用達となる商家(掛屋)が現れ、九州経済の中心的役割を担うようになります。豆田町の町年寄中村家跡の発掘調査では陶磁器や硯などが多数出土しており、当時の繁栄した町の姿を想像させてくれます。



瓦 (一巴) (城下町遺跡)



「三丁目中村」銘磁器皿 (城下町遺跡)

## 歴史年表

旧石器	縄文	弥生	250年頃	古墳	710年	古代	1192年	中世	1568年	近世	1868年	近代
<ul style="list-style-type: none"> <li>・竊居遺跡で焼き火跡が見つかる</li> <li>・現在の日本列島での人類の生活開始</li> <li>・約三万五千年前</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大地下内陸部と、河川の流域で生活を営むようになる</li> <li>・約五千年前</li> <li>・土器・土器の活用が始まる</li> <li>・約一万三千年前</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環濠遺跡で稲作文化の影響を受けた集落が作られる</li> <li>・吹上遺跡でオウギが出土する</li> <li>・奴国王が中国皇帝より金印を授かる</li> <li>・約二千五百年前</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小迫辻原遺跡で居館が営まれる</li> <li>・約二千五百年頃</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大波羅遺跡で、市内各地で環濠集落が作られる</li> <li>・約二千五百年頃</li> <li>・大型の前方後円墳が造られる</li> <li>・約四百年頃</li> <li>・鉄作りや須恵器作りが伝わる</li> <li>・約四百年頃</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大波羅遺跡で郡司職とみられる建物群が建てられる</li> <li>・大領御柱建物が建てられる</li> <li>・平城京に都が遷される</li> <li>・約七百年頃</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊後国風土記がつくられる</li> <li>・七九二年</li> <li>・平安京に都が遷される</li> <li>・七九四年</li> <li>・大蔵氏が活躍する</li> <li>・約九二一年</li> <li>・大蔵氏が活躍する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日下部氏が活躍し、大蔵氏が登場する</li> <li>・平安京に都が遷される</li> <li>・七九四年</li> <li>・豊後国風土記がつくられる</li> <li>・七九二年</li> <li>・大蔵氏が活躍する</li> <li>・約九二一年</li> <li>・大蔵氏が活躍する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・慈眼山遺跡でこの頃の念持仏が発見される</li> <li>・室町幕府が成立する</li> <li>・一三三八年</li> <li>・一三三八年</li> <li>・朝日宮、原遺跡で鏡や古銭を副葬した墓がつくられる</li> <li>・鎌倉幕府が成立する</li> <li>・約一九二一年</li> <li>・大蔵氏が活躍する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大蔵氏の家系が断絶し、朝族の大友氏が継ぐ</li> <li>・一四四四年</li> <li>・慈眼山遺跡でこの頃の念持仏が発見される</li> <li>・室町幕府が成立する</li> <li>・一三三八年</li> <li>・朝日宮、原遺跡で鏡や古銭を副葬した墓がつくられる</li> <li>・鎌倉幕府が成立する</li> <li>・約一九二一年</li> <li>・大蔵氏が活躍する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大蔵氏の家系が断絶し、朝族の大友氏が継ぐ</li> <li>・一四四四年</li> <li>・慈眼山遺跡でこの頃の念持仏が発見される</li> <li>・室町幕府が成立する</li> <li>・一三三八年</li> <li>・朝日宮、原遺跡で鏡や古銭を副葬した墓がつくられる</li> <li>・鎌倉幕府が成立する</li> <li>・約一九二一年</li> <li>・大蔵氏が活躍する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・永山城跡に日田県庁が設置される</li> <li>・明治維新が成立する</li> <li>・約一八六八年</li> <li>・大蔵氏の家系が断絶し、朝族の大友氏が継ぐ</li> <li>・一四四四年</li> <li>・慈眼山遺跡でこの頃の念持仏が発見される</li> <li>・室町幕府が成立する</li> <li>・一三三八年</li> <li>・朝日宮、原遺跡で鏡や古銭を副葬した墓がつくられる</li> <li>・鎌倉幕府が成立する</li> <li>・約一九二一年</li> <li>・大蔵氏が活躍する</li> </ul>	